

提言3：プロジェクト管理における原価構成表等の活用

プロジェクト管理の具体的実施においては、装備品の原価構成表等を活用するなど、プロジェクト管理のための基礎的データの収集と手法の整備に努めることが必要である。

諸外国もプロジェクト管理について、各国の法規、企業慣行等のなかで、試行錯誤を繰り返しながら独自の手法を開発しているところであるが、防衛庁もわが国の国情に即した手法を採用又は開発していくべきである。そのなかで、T-4中等練習機の開発時に採用されその後改良されたDTCN/DTC（注2）（Design To Customer's Needs/Design To Cost）は、実績のある手法であり米国においても評価されている。

また、同手法を実施するに当たっては以下の事項を検討し具体化する必要がある。

- i) VE (Value Engineering) (注3)とDTCN/DTC手法の防衛庁における定義と手順
- ii) 装備品の原価の構成の詳細を明らかにする原価構成表の使い方とその妥当性の確認の方法
- iii) プロジェクト管理のためのMIL規格（米軍の規格）であるMIL-STD 499Aの準用もしくは代替スペックの採用
- iv) 民々間で使用されている基本契約書の導入（原価構成表の適用等甲乙間の契約内容を丙以下に対しても実質的に波及させることの義務付けなど正確な原価把握の手段についての検討）
- v) 売買契約における原価把握の改善についての検討（輸入品等売買契約を適用する調達について購入価格の適正性の確認のための原価把握の向上）

（注1）原価構成表：装備品を部品毎又は工程毎に分割し、それぞれについて費目毎に見積もられたマトリックス構造をした見積書

（注2）DTCN/DTC：システムの具体化を経済的に実現するためにその開発・生産等の段階において、性能、コスト、品質、スケジュールを同一レベルの管理要素として扱い、目標コストを設け、開発設計を進める方法に関する手順と体制を創り、それをフォローする活動

（注3）VE：あらゆる物や仕事には、必ず何らかの目的と働きがあり、この目的と働きを機能という面から分析する価値分析の手法